

留学生の声エッセイ

別科 リ カンハイ(李 冠霽)

<日本留学生活>

皆さん、こんにちは。台湾から来たり カンハイ(李 冠霽)と申します。私は日本に来てから、もうすぐ半年が経ちます。この半年の間に、多くのことを学び、たくさんの友達と出会うことができました。また、さまざまな活動に参加し、多くの思い出を作ることができました。

9月に日本に来てから、まず新しい環境に対して緊張を感じました。空港まで迎えに来てくださったのは先生だけでなく、留学生との交流をサポートしている JIST の学生の皆さんでした。当時の私は、初対面の人と話すことに少し不安があり、自分の日本語が十分ではないため、うまくコミュニケーションが取れないのではないかと心配していました。しかし、JIST の皆さんはとても優しく、私の拙い日本語にも丁寧に耳を傾けてくださいました。そのおかげで、次第に不安もなくなり、心を開くことができました。その後の学校活動を通して、少しずつ交流を深め、今では大切な友達となりました。これは私にとって大きな成長だと感じています。



<高麗祭後の食べ会写真>

11月には高麗祭が開催されました。これは自分の国の文化を紹介するイベントで、私たちは台湾のお菓子をテーマに出展しました。準備の段階からみんなで協力し合い、当日は来場者の方々に台湾の文化を紹介しながら、お菓子を試食していただきました。この活動を通して、日本人と話す機会が増えただけでなく、他国の留学生とも交流することができ、とても貴重な経験となりました。今でも強く印象に残っています。



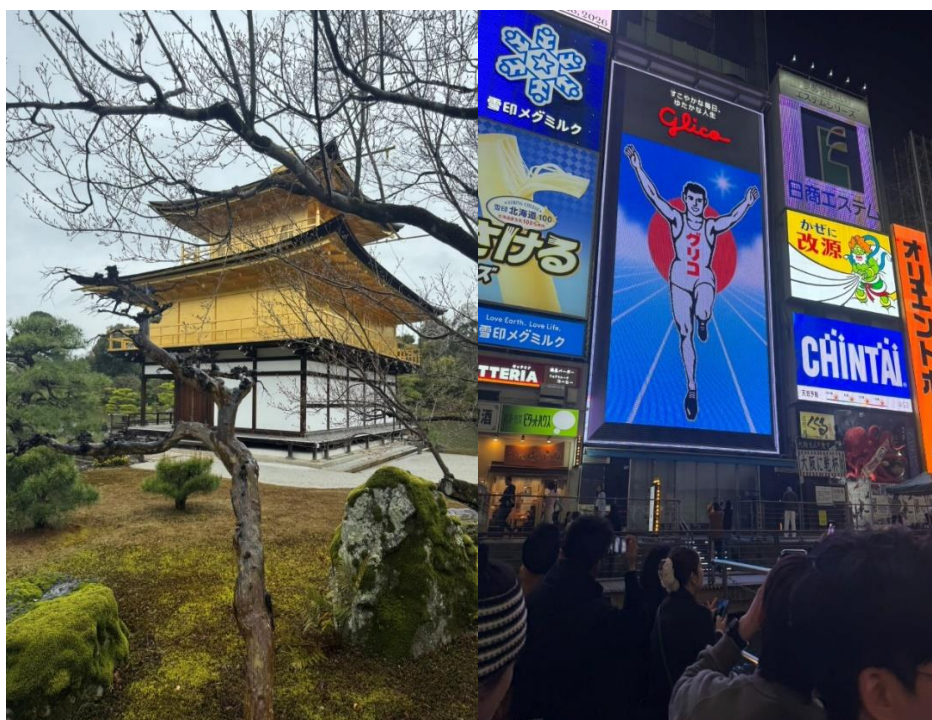
<高麗祭台湾組>

留学生活の中で、別科のクラスメートとも出会い、その中の何人かとはとても親しい友人になりました。また、先生方も皆とても親切で、安心して学ぶことができます。授業では、日本語だけでなく、経済や栄養など台湾ではあまり履修したことのない科目も学びました。さらに、日本語能力試験N2に向けた授業も受けています。これらの学習を通して、読解力が向上し、文法の理解も深まりました。特に、分からない単語をそのままにせず、その都度辞書で調べることを心がけたことで、読むスピードも少しずつ速くなったと感じています。



<別科のいい友たち>

学期が終わった後の長期休暇には、いろいろな場所を旅行しました。もともと旅行が好きなので、日本に来てからも各地を訪れることができ、とても嬉しく思っています。東京ではあまり観光ができていなかったため、家族と一緒に鎌倉へ行きました。また、3月には大阪や京都にも旅行し、日本の風景の美しさにとても感動しました。



城西大学での交換留学も、すでに半分が過ぎました。残りの時間を大切にしながら、さらに日本語能力を向上させるとともに、日本での生活を思い切り楽しみたいと思います。